

平和の炎

Vol. 2

第2回読谷村平和創造展

—— 平和郷はみんなの手で ——

〔写真集 戦時下の読谷村〕



読 谷 村

発刊にあたって



読谷村長 山内 徳信

平和とは何か、戦争とは何かをあらためて問い直し、日常生活の中で平和問題を考える機会としたいというのが「平和創造展」の主旨であります。

昨年初めて開催され、多くの皆様方の参観を得て、大きな反響を呼びました。中でも沖縄戦における読谷村内の戦禍や村民の様子を写した写真パネルが数多く展示されましたが、これらをぜひ一冊の写真集にしてほしいという声が多く寄せられ、ここに「平和の炎」Vol.2〔写真集 戦時下の読谷村〕と題し、その一部をまとめ、発刊することにいたしました。

ご存じのとおり、本村はあの忌まわしい沖縄戦の米軍上陸の地であり、従軍カメラマンも初の本島上陸ということで、実に多くの写真を撮り、その当時の様子を私たちに見せてくれております。

沖縄戦の実相を知る上で、これらの写真が語る当時の様子は、文字による描写を越えて視覚に訴え、迫るものがあります。

この写真集を手におじいちゃん、おばあちゃんと孫たち、あるいは親と子といったいろんな形で、沖縄戦の悲惨さを語り合いながら、日常生活の中から平和の尊さを考えて行くような、そういうものにして頂きたいと思います。

戦争を起こすのも人間ですが、同時に戦争を拒否し平和な社会を築き得るのもまた人間であります。このことを共通の認識とし、「平和に勝る福祉はない」を合言葉にこれからも一日、一日を反戦平和の具体的な取り組みとして、その実践を積み重ねて行きたいと思います。

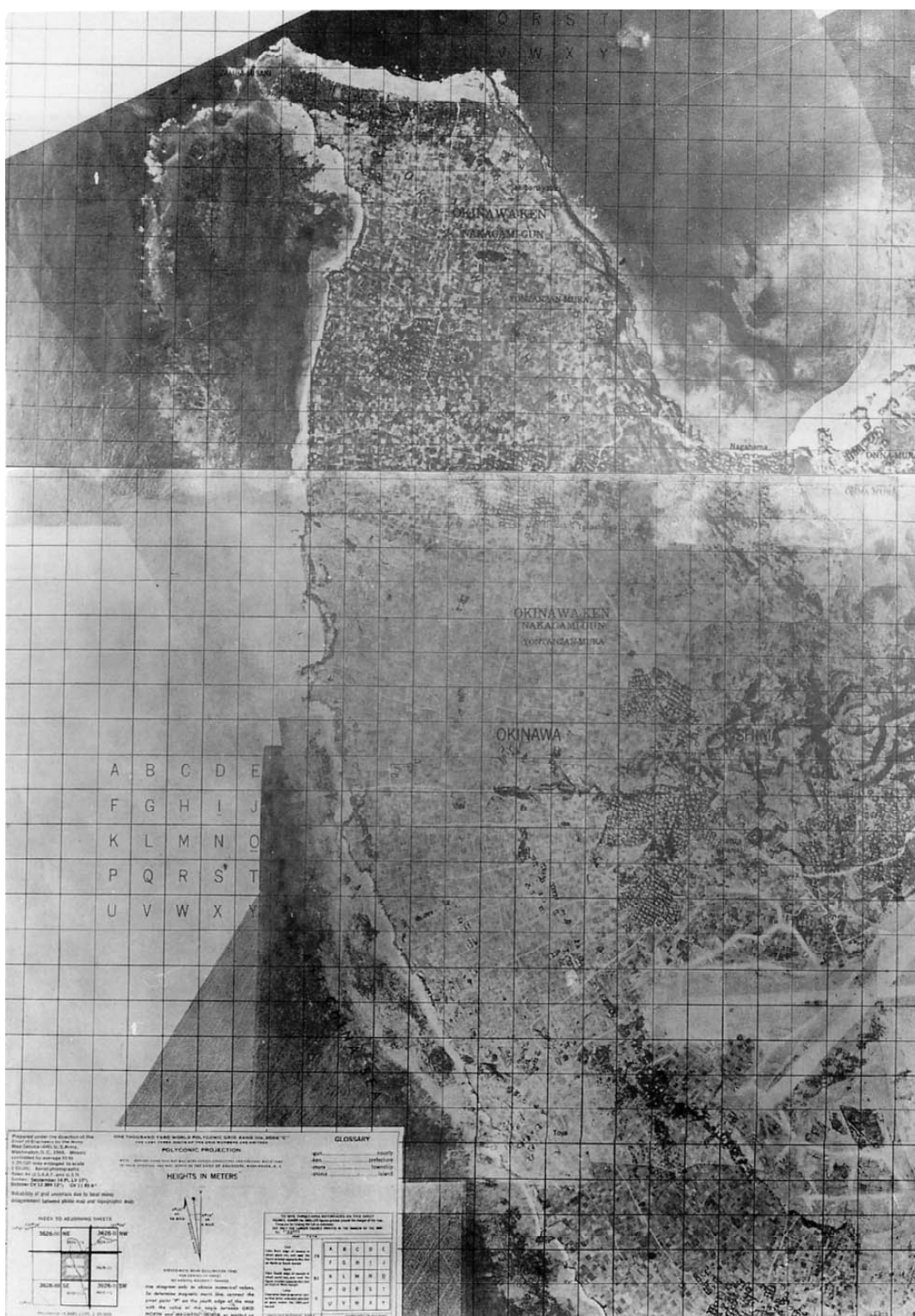
最後に、この写真集が村民をはじめ関係者の皆様の日々の平和創造の参考資料に役立てていただけますならば幸いです。

目 次

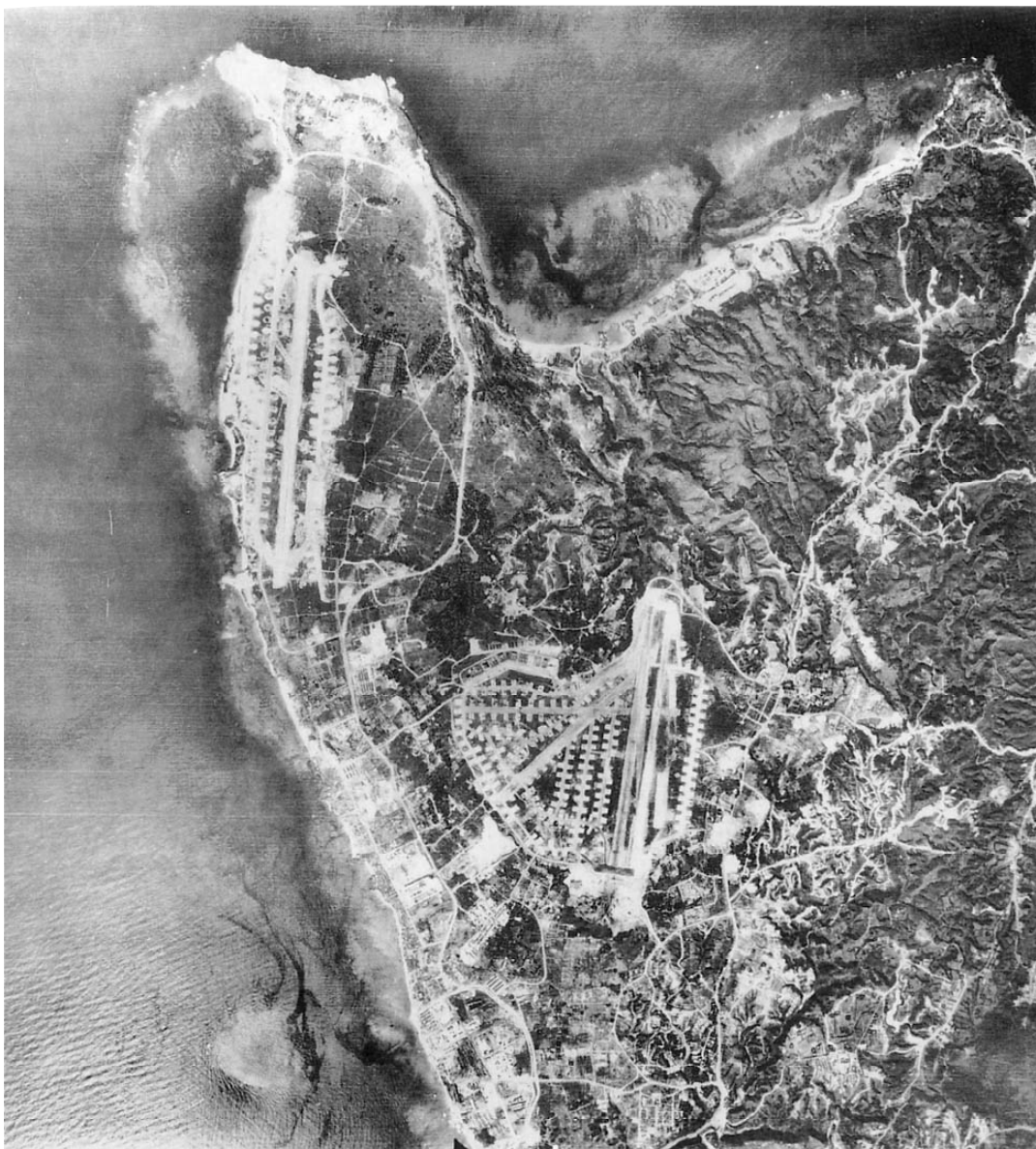
読谷村航空写真.....	1
第一部 戦時体制下へ.....	5
1. 戦時体制下へ.....	7
第二部 米軍上陸.....	11
1. 米軍上陸.....	13
2. 占領下の読谷.....	18
3. 読谷北飛行場.....	26
第三部 国頭避難、捕虜.....	31
1. 国頭避難、捕虜.....	33
(避難経路と捕虜収容所)	
読谷村の沖縄戦戦没者数.....	47
沖縄戦関連年表.....	48



昭和19年頃の読谷山村の航空写真。中央の北飛行場は昭和18年夏に計画され、球9173部隊の指揮下で総面積73万坪、2,000m滑走路をもつ東洋一の飛行場として県下各地から動員された徴用労務者等によって1年6ヵ月余にわたって工事が進められた。



昭和19年頃の米軍撮影の航空写真。B29や輸送機によって昭和19年9月29日、10月10日の空襲時及び昭和20年1月から3月までに6回にわたって沖縄全域の空中撮影がなされ、これによって読谷上陸が決定された。また、このメッシュ入りの写真とトンボと呼ばれた偵察機によって正確に目標地点を攻撃することができた。



1945年12月10日撮影の航空写真。米軍は上陸後早々に本土攻撃の飛行基地建設に着手、北飛行場跡に沖縄で最初の中距離爆撃機用飛行場（2,000m）が1945年6月17日に完成した。その後、残波岬南の長距離用（2,550m）のボーローポイント飛行場も完成した。



現在の読谷村。北飛行場は戦後44年経った今なお、アメリカ軍の落下傘降下訓練施設となり、基地被害は絶えたことがない。また、手前のトリイ通信施設には近年米軍特殊部隊グリーンベレーが配備された。